

「平成 28 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を実施しました

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制設備事業」の継続事業として、「平成 29 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を、平成 29 年 8 月 25 日～8 月 27 日にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて実施した。

本事業は、県立広島大学主催で、マツダ財団の協力により、2泊3日集中合宿形式で実施。

講義内容は、他大学の学生と 3 人一組のチームになり、米国や欧州、中国の各市場の担当者となり、その市場に合った「10 年後の若者のための車」を商品企画する。

チームで、ゴールに向かい、最善の結論を導き出すために、理性的に、批判的に、意見交換を繰り返し、「議論」する。正解のない課題解決のためにどうすれば良いかを、自分たちで考え、解決方法を見つける。「正解のない課題に立ち向かう力」を身に着けることを目的としている。

自ら考え、論理立て、聞く側を納得させることは、社会で必要な力であり、そのために必要な「気付き」を与え、行動の変化を起こすことで、就業力育成に繋げている。

日 時：平成 29 年 8 月 25 日（金）～27 日（日）

場 所：マツダ本社、サテライトキャンパス広島

参加大学：県立広島大学、岡山県立大学、岡山理科大学、四国大学、島根大学、島根県立大学、広島修道大学

※平成 28 度参加大学 県立広島大学、岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、四国大学、島根大学、広島修道大学
参加人数：学生 24 名、マツダ財団 1 名、参加大学教職員 8 名

最 優 秀：チーム名；Paper Driver コンセプト；Driver と共に成長する車 担当市場；中国

講義終了後の学生のコメントを一部紹介します。

- ・ 授業開始前まで、私は、海外に対する恐怖心から海外で働きたい、行ってみたいと思ったことはこれまで一度もありませんでした。しかし、講義で主体的に動くこと、熟考すること、チームワークを発揮する方法とその重要性を知り、加えてグローバルな視点で活動したことにより、非常に海外へ行きたいと思うようになりました。今後も、自問自答を繰り返すことで、自分について考え、成長に繋がりたいです。発想力を鍛えるために、「素直に感じること」、「自由に考えること」を大切にしたいと思います。3日間ありがとうございました。
- ・ この3日間の合宿授業を通して、チームで仕事をしていくことの大変さを実感しました。仕事をする上でチームワークが大切であることはよく理解していたつもりでしたが、チーム内で他人に自分の考えを伝えることは思った以上に大変でした。今振り返ってみると、もっとこうすべきだったという点が多々あります。この「気付き」をこれからの勉強に繋げていきたいと思いました。
- ・ 当講義を受講して、産業に関する知識やそれを取りまく状況、チームで活動する上での大切なことを学びました。特に、「正解のない課題」に対して、取り組んだときは、どのようにして課題に取り組めばいいのか最初は正直分からなかったのですが、視点を変えて考え、「その答えを創造すること」、「それを相手に納得させること」が大事なことであると学びました。納得させる点に関しては、あまり成果を出せませんでした。これをバネに今後の学生生活だけでなく、生きていく上で活かしていきたいと強く思いました。

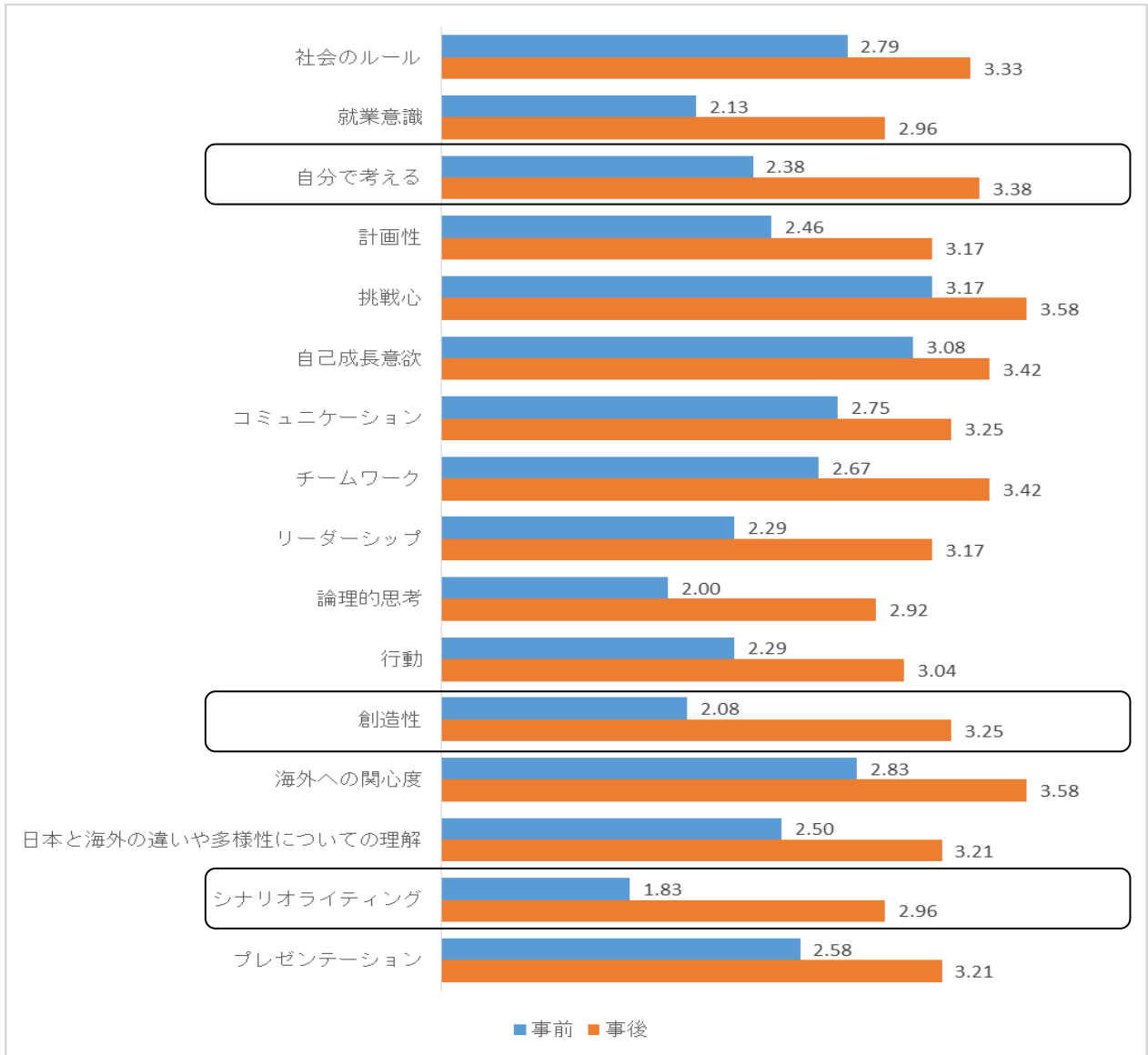
中四国産学連携合宿授業ルーブリック評価結果

【授業前後の伸長度合・評価結果（4件法）】（レベル4=4, レベル3=3, レベル2=2, レベル1=1）

※**太枠**は統計的に有意だったもの ※下側は受講前, 上側は受講後

【授業の満足度】 24名全員回答

4：満足→ 11名 3：やや満足→ 3名 2：やや不満→ 0名 1：不満→ 0名



総合してすべての数値が上がる結果となった。伸びの数値が高かった上位3つは、1位「創造性」2位「シナリオライティング」3位「自分で考える」の順であった。

「創造性」については、海外在住の視点で10年後の車を企画するという演習を通じ、チームでアイデア創造方法を用い、協力してより高度のアイデアや問題解決オプションを創造できるようになるというこれからの時代に必要となる力が身に付いたと思われる。「シナリオライティング」では、学生たちは何度も何度も話し合い、調べ、論理的に予測しながら幅広い領域で将来のシナリオを完成させ、相手を納得させるための力を身に付けることができた。また、「自分で考える」では、「正解のない課題の解決」のためにどうすれば良いかの実践を通じて自分たちで考える力が身に付き、自分のキャリアや行動は自分で決め、そのために必要な学びや情報収集も自分で行うことができるレベルに到達できたと考える者が増加したといえる。

一方伸びの数値が低かったものは、例年同様「自己成長意欲」であった。これは、もともと意欲的な学生が多く参加しておりベースが高いこと、および「生涯を通じて自分を成長・向上させたい」という意欲は短期間の授業では醸成しにくいと思われる。



【マツダミュージアム見学】



【グループワーク】



【プレゼンテーション】



【集合写真】